学費値上阻止！ 熊野寮自治会

廃寮化攻撃を粉砕し自主管理を貫くぞ

全学の皆さん！ 現在政府・文部省の手によって学費値上が行なわれんとしている。既に入学金の8万円から10万円への引上げは予算案として提出され、入試の二次試験の受験料値上も決定された。

この学費攻撃の本質・意図は何であろうか。それはまさに受益者負担論を教育の場に押しつけたものと言えよう。つまり教育を一つの投資とみる教育投資論の押しつけでもある。一個の人間に金をつぎ込めば、将来元をとるばかりか数倍の利益が返ってくるという考え方である。しかし、そうやってつぎ込まれた金は、実際には現体制や産業構造に都合のいい人間を生産する為に使われ、一人一人の人間にとっては、個性を伸ばし人間性を獲得する方向とは全く逆の作用をする。しかも「受益者」の『益』の追求の為に、他人を蹴落とし、競争に勝ち抜いていく事が教育の場において最も善しとされるのである。即ち、差別・選別の教育体制確立が意図されているのである。分断によって人民を管理・支配するのは権力者の行う常套手段である。しかも大学に行くのに金も払えぬ低所得者層は授業料値上で切り捨てられ、入学金値上で又切り捨てられる。

あの悪名高き中教審答申において、いみじくもこの様にある『受益者負担の実際額は、教育政策の立場からその経費の調達が大部分の国民にとって著しく困難でなく、個人経済的には有利な投資とみなしうる限度内で適当な金額とすべきであろう』

ところで――

この学費攻撃と全く同じ意図の攻撃が京大の、否全国の学寮に対してかけられている。寮に対する食堂つぶし。これは文部省とその配下である京大当局学生部が、会計検査の指摘を口実に行わんとするものである。寮生に対して『寮食堂の炊フはお前らで雇え。さもなくば食堂は潰す』といった形で受益者負担の負担区分を強要しているのだ。学寮の意義を忘れた当局の攻撃は、79年12月の熊野寮炊フの不補充、80年3月の吉田寮炊フの不補充と、具体的な形で表われている。

又、昨年10月に寮生個々人と親元へ送られてきた在寮者確認文書。これなむ、既に新聞発表で寮生を確認しておきながら、当局学生部による管理・支配が寮の自治・自主管理によって貫徹できない故に、我々に対して恫喝と分断を仕掛けてきたものである。

こうした事ある毎に我々は、当局に話し合いを求めてきた。我々の求める話し合いとは双方が納得する迄行い、白日の下、衆人の目に明らかな大衆団交を指す。これに対して当局は、人数・時間制限という条件に加え、当局の都合の悪くなった場合は警察権力による弾圧有り、という条件で答えてきたのだ。

それが12・15弾圧――炊フ不補充が論理的に破産するや、交渉の場に機動隊を導入し、寮生らを排除した上に寮友3名に対してデッチ上げ逮捕を行った。

大学再編・国内再編は侵略に向けて今も着着と進められている。学費攻撃、寮自主管理破壊攻撃を見る迄もなく国内は反動へと向っており、大学に居る学生や教職員の意識から作りかえんとする攻撃がかかっている。寮自治会はそれらに断固反撃の鉄槌を加え斗っていく。教養部に於ては、来る1月29日に学生大会＝C代大が提起されている。原則的大衆運動を基盤とした討論の場であるC代大において全ての学生諸君が自らの考えをもち寄り共に討論されん事を訴えたい。そして斗う意志を一つに結集して力としていこう。

我々も共に討論し、共に斗っていこうと考える。

一九八一年一月十三日

熊野寮自治会

751-4050